

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：12608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530314

研究課題名(和文)現代の政策課題と動学的マクロ経済学の応用可能性

研究課題名(英文)Policy issues and applicability of dynamic macroeconomics

## 研究代表者

堀 健夫(Hori, Takeo)

東京工業大学・大学院社会理工学研究科・准教授

研究者番号：80547513

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、様々なバックグラウンドをもった研究者が共通の政策課題について議論し、マクロ経済学の諸理論をいかに応用していけばよいかを検討することを目的とした。そのため研究会の開催を通じて多様な分野の研究者との意見交換を行うことを重視した。開催した研究会は、経済理論・政策ワークショップ29回、DSGEワークショップ12回である。また、DSGEワークショップは2012年度に国内カンファレンス(広島大学)を開催し、2014年に台湾国立大学での国際カンファレンスを開催した。この他、研究代表者および分担者により、国際的な査読雑誌を含む17本の学術論文が公刊され、43回の学会報告が行われた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to discuss the applications of macroeconomic theories to various policy issues. For our purpose, we held workshops and conferences, in order to foster the exchange of opinions with many researchers with various backgrounds. We held ETPW workshops 29 times and DSGE workshops 12 times. About 60 researchers were invited in these workshops. In addition, we held an international conference of DSGE workshop at National Taiwan University in 2014. The members of this research project published 17 academic papers in international refereed journals and made 43 presentations of our researches at academic conferences.

研究分野：経済成長理論

キーワード：マクロ経済学 経済政策 研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景

経済学に求められる重要な役割として政策科学としての側面がある。マクロ経済学は金融・財政政策や所得再分配政策など、経済政策を分析するための様々な理論的フレームワークを構築してきた。研究代表者らは、2009年度以降、二つの研究会(DSGEワークショップと経済理論・政策ワークショップ)を開催してきた。これらの研究会では30代を中心とする比較的若い研究者によって最新の研究成果が報告され、現在の先端的なマクロ経済学の研究動向に関する知見を得てきた。この中で、動学的マクロ経済学は、異時点間の資源配分の効率性について考えるという点で根本的な問題意識を共有している一方で、研究手法に関しては非常に大きな相違があることが明らかになってきた。マクロ経済学研究の現状は、問題意識は共通している一方でモデル化に際してのアプローチが異なり、研究者間での意思疎通が取れていない傾向にあった。

## 2. 研究の目的

本研究プロジェクトは、様々なバックグラウンドをもった研究者が共通の政策課題について議論し、マクロ経済学の諸理論をいかに応用していけばよいかを検討することを目的とした。具体的な政策課題としては、当初、景気循環に対する期待形成と金融・財政政策の役割、経済成長と経済危機に対する政策的対応を考察することを目的とした。

## 3. 研究の方法

景気循環に対する期待形成と金融・財政政策の役割、経済成長と経済危機に対する政策的対応を中心に、様々な専門分野の研究者がマクロ経済学の諸理論をいかに応用していけばよいかを検討しつつ、研究を遂行する。また、問題意識や研究手法を共有する具体的な方法として、従来から開催してきたDSGEワークショップと経済理論・政策ワークショップを開催し、様々な分野の研究成果を吸収した。

## 4. 研究成果

本研究の主要な成果として、研究代表者および分担者により国際的な査読雑誌を含む17本の雑誌論文が公刊され、43回の学会報告が行われた。

経済成長に関しては以下の研究成果が挙げられた。Momota (2016)では、現在の日本で重要な社会問題となっている少子高齢化に関連し、出生率の低下を、子供を産む女性の低下(extensive margin)と一人の女性の産む人数の低下(intensive margin)に区別し

たうえで、その資本蓄積や経済厚生に与える影響を考察した。その上で、世代間の所得再分配政策の意義について考察した。Hori and Maebayashi (2016)、Maebayashi, Hori, and Futagami (2015)、Morimoto, Hori, Maebayashi, and Futagami (2015)では、現在の日本で重要な政策課題となっている国債発行に関連し、国債発行額に関する政策ルールが経済成長経路に与える影響を考察した。

景気循環に関して、Nutahara and Inaba (2012)は、景気循環会計という手法をDSGEモデルに応用した。そして、日本経済のデータを利用し、景気循環会計の実証的有用性を検討している。Arato and Nakamura (2013)は、ゲーム理論の枠組みで情報公開政策を分析した。

異なる分野の研究者との情報交換が成果に結びついた例として、Suzuki (2014)がある。Suzuki (2014)では、客観確率を用いた期待形成を仮定することが一般的な資産価格モデルに、主観的な確率評価を導入している。これは、行動経済学など他分野の研究報告を聞く中で得た着想に基づいている。

本研究では研究会の開催を通じて多様な分野の研究者との意見交換を行うことを重視した。そこで、経済理論・政策ワークショップとして29回、DSGEワークショップとして計12回開催した。また、DSGEワークショップは2012年度に国内カンファレンス(広島大学)を開催し、2014年に台湾国立大学での国際カンファレンスを開催した。

経済理論・政策ワークショップの報告者は次のとおりである。(所属は当時のもの)

2015年度 中村大輔氏(内閣府)、渡辺誠氏(VU University Amsterdam, Tinbergen Institute)、外木暁幸氏(一橋大学)、内藤巧氏(早稲田大学)、青木芳将氏(立命館大学)、高山直樹氏(内閣府)、北野泰樹氏(一橋大学)、平賀一希氏(東海大学)、片山宗親氏(京都大学)、山田克宣氏(近畿大学)、田村彌氏(東京大学)、犬飼圭吾氏(大阪大学)、森田薫夫氏(大阪大学大学院)、平口良司氏(千葉大学)

2014年度 青木周平氏(一橋大学)、佐々木啓明氏(京都大学)、菅史彦氏(内閣府経済社会総合研究所)、大浦あすか氏(大阪大学大学院)、豊田宏樹氏(京都大学大学院)、三野和雄氏(京都大学)、阪本浩章氏(早稲田大学・日本学術振興会PD)、大土井涼二氏(東京工業大学)、郡司大志氏(大東文化大学)、中村友哉氏(大阪大学)、平野智裕氏(東京大学)、古川陽介氏(成蹊大学)、北浦康嗣氏(法政大学)

2013年度 松岡多利思氏(首都大学東京)

浅野貴央氏(岡山大学)、チュラン・アン・ズーン氏(一橋大学大学院)、吉沢裕典氏(横浜国立大学大学院)、長谷川誠氏(政策研究大学院大学)、青野幸平氏(京都産業大学)、大瀧英生氏(神奈川大学)、大山睦氏(北海道大学大学院)、岡田敏裕氏(関西学院大学)、小島健氏(大阪大学大学院)、三宅伸治氏(西南学院大学)

2012 年度 金子昭彦氏(早稲田大学)、中園善行氏(早稲田大学大学院)、山本和博氏(大阪大学)、顧濤氏(一橋大学大学院)、鹿野繁樹氏(大阪府立大学)、濱秋純哉氏(一橋大学)、高木真吾氏(北海道大学)、大野弘明氏(東京国際大学)、近藤広紀氏(上智大学)

DSGE ワークショップでの報告者は以下のとおりである。

2014 年度 宮本弘暁氏(東京大学)、片桐満氏(日本銀行)、柏木昌成氏(国立台湾大学)、砂川武貴氏(東京大学)、海野晋悟氏(高知大学)、脇雄一郎氏(クイーンズランド大学)、仲田泰祐氏(連邦準備制度理事会)、松岡秀明氏(日本経済研究センター)

2012 年度 平田英明氏(法政大学)、松岡多利思氏(首都大学東京)、高橋修平氏(京都大学)、溜川健一氏(明治大学)、濱野正樹氏(ルクセンブルク大学)

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Akira Momota, "Intensive and Extensive Margins of Fertility, Capital Accumulation, and Economic Welfare," *Journal of Public Economics*, 133, 2016, 90-110. (査読有)  
10.1016/j.jpubeco.2015.10.003

Takeo Hori and Noritaka Maebayashi, "Debt policy rule, utility-generating government spending, and indeterminacy of the transition path in an AK model" accepted in *Macroeconomic Dynamics*, 2016 (査読有)

Takeo Hori, Masako Ikefuji, and Kazuo Mino, "Conformism and Structural Change" *International Economic Review*, 56, 2015, 939-961. (査読有)  
DOI: 10.1111/iere.12127

Noritaka Maebayashi, Takeo Hori, and Koichi Futagami, "Dynamic analysis of reductions in public debt in an endogenous growth model with public capital" accepted in *Macroeconomic Dynamics*, 2015 (査読有)

Keiichi Morimoto, Takeo Hori, Noritaka Maebayashi, and Koichi Futagami, "Debt Policy Rules in an Open Economy" accepted in *Journal of Public Economic Theory*, 2015 (査読有)

Shiba Suzuki, "An Exploration of the Effect of Doubt during Disasters on Equity Premiums" *Economics Letters*, 123, 2014, 270-273. (査読有)  
DOI: 10.1016/j.econlet.2014.02.010

Hiroki Arato and Tomoya Nakamura, "Endogenous Alleviation of Overreaction Problem by Aggregate Information Announcement" *Japanese Economic Review*, 64, 2013, 319-336. (査読有)  
DOI: 10.1111/jere.12003

Kengo Nutahara and Masaru Inaba, "An application of business cycle accounting with misspecified wedges" *Review of Economic Dynamics*, 15, 2012, 265-269. (査読有)  
DOI: 10.1016/j.red.2012.01.004

[学会発表](計6件)

桃田朗 "Intensive and Extensive Margins of Fertility, Capital Accumulation, and Economic Welfare," 六甲台マクロセミナー(招待講演), 神戸大学, 2015年9月

Shiba Suzuki, "Uncertainty in a Borderline: Evidence from a Field Experiment," (with Shinya Kajitani and Keiichi Morimoto), Economic Science Association European Meeting, University of Heidelberg, 2015年9月

堀健夫 "Optimality of Structural Change in a Two-sector Endogenous Growth Model," (内野泰助氏、水谷徳子氏との共著), 関西マクロ経済学研究会(招待講演), 大阪大学中之島センター, 2015年5月

稲葉大 "Over-Investment in Bubbles and Prudential Policy," University of Kent seminar series(招待講演), University of Kent, 2013年9月

荒戸寛樹 "Financial Market Imperfections and Boom-Bust Cycles," (山田克宣との共著), DSGE コンファランス 2012, 広島大学, 2012年12月

Keiichi Morimoto "Fiscal Sustainability, Macroeconomic Stability, and Welfare under Fiscal Discipline in a Small Open Economy," The 2012 European Meeting, Econometric

Society, University of Gothenburg, 2013年8月

〔図書〕(計2件)

武藤功、花園誠、須田伸一、細矢祐誉、尾崎裕之、金子創、佐藤伸、虞朝聞、友寄一郎、田中久稔、八尾政行、加藤寛之、盛本圭一。「数理経済学の源流と展開」慶應義塾大学出版会 2015年

梶谷真也、鈴木史馬。「しっかり基礎からミクロ経済学—LQアプローチ」日本評論社 2016年

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
経済理論・政策ワークショップ  
<https://sites.google.com/site/etpwtokyo/>

DSGE研究会

<http://www.kengonutahara.com/dsge-works-hop>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀 健夫 (HORI, Takeo)  
東京工業大学大学院社会理工学研究科  
准教授  
研究者番号：80547513

(2) 研究分担者

荒戸 寛樹 (ARATO, Hiroki)  
首都大学東京都市教養学部経営学系

准教授

研究者番号：90583518

稲葉 大 (INABA, Masaru)

関西大学経済学部准教授

研究者番号：50611315

鈴木 史馬 (SUZUKI, Shiba)

成蹊大学経済学部准教授

研究者番号：60583325

奴田原 健悟 (NUTAHARA, Kengo)

専修大学経済学部准教授

研究者番号：30553672

桃田 朗 (MOMOTA, Akira)

立命館大学経済学部教授

研究者番号：30309512

盛本 圭一 (MORIMOTO, Keiichi)

明星大学経済学部准教授

研究者番号：50609815

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：